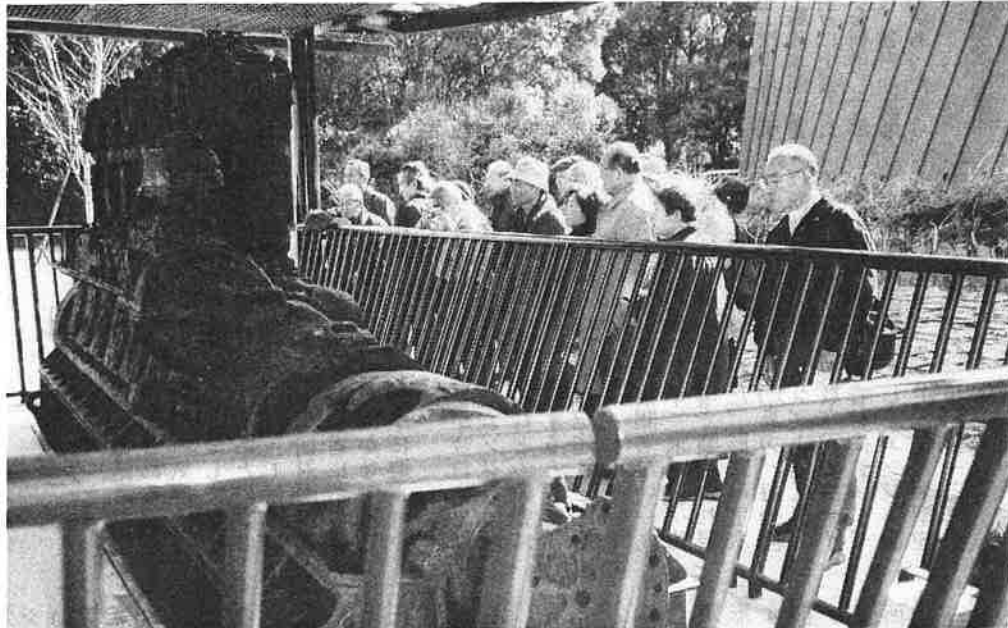


福竜丸だより



都立・第五福竜丸展示館ニュース

発行 (財) 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



2月11日、新俳句人連盟の「2月吟行句会」が第五福竜丸エンジンを席題にして行なわれた。句帖を手に、エンジンをみつめ、その鼓動を聞いた。

第五福竜丸エンジンに寄せる

被爆エンジン五指冷えびえと点字板
 エンジンは非核の眼窩はこべ萌え
 被爆エンジン湾の芽吹きは汐守に
 水仙並ぶヒバク死一人増えている
 機関士の目・口被爆の六気筒
 エンジンの瞳孔かっ北風ざらし
 寒風に被爆エンジン着火しそう
 エンジン降りモザイク芝生春兆す
 「証人」の鼓動聞く春愛吉碑
 ビキニ後の汽筒の錆びの轉るや
 被爆のエンジン黄水仙の列になる
 春潮に向きエンジンの憤怒の相
 六気筒ギョロリと朽ちて春海へ
 二月の海じつと愛吉碑へ自問
 被爆エンジン人魚すわりに冬湾光
 永住の土地得し安堵冬日影
 腐蝕とどめ福竜エンジン息白し
 骨髓のエンジン漬かる二月の陽
 眼裏で育つ春あり錆エンジン
 歯ぎしりのエンジンひとつ核寒し
 水仙や機関士はがねの六地藏
 魚棲みしエンジン芽風の夢の島
 被爆エンジン人の心に寂ぶ芽吹き
 めばるにも告げて被爆のシリンドラー
 廃エンジンの心音ビキニ忌へ寒し
 福竜丸に青春もどる六気筒
 海底より六気筒春へ錆の口
 朽ち機関ボルトも細り肌寒し
 福竜丸先に息吹く汽筒水仙香
 冬風に被爆エンジン水仙も

田辺レイ子
 沖正子
 徳安通敬
 松田ひろむ
 遠藤範子
 石川貞夫
 徳安通敬
 沖正子
 松田ひろむ
 望月たけし
 山田正太郎
 望月よし江
 中西權
 田辺レイ子
 沖正子
 徳安通敬
 松田ひろむ
 遠藤範子
 石川貞夫
 徳安通敬
 沖正子
 松田ひろむ
 望月たけし
 山田正太郎
 望月よし江
 中西權
 荒井貞子
 荒井貞子
 谷山花子
 吉平たもつ
 佐藤秀子
 和田つねを
 岡崎万寿
 森白樹
 大房隆夫
 露木茂子
 森茂子
 早乙女文子
 飯田四朗
 遠藤範子
 石川貞夫
 徳安通敬
 沖正子
 松田ひろむ
 望月たけし
 山田正太郎
 望月よし江
 中西權

日本山妙法寺の平和祈念行脚焼津へ出立

ドーン・ドーン・ドーン身を切るような冷たい潮風に黄色の衣が揺れ、無妙法蓮華経の轍がはためく。太い読経の唱和が人々の胸をゆすり、うちわ太鼓が夢の島に響き渡った。

二月三日、日本山妙法寺の「二〇〇〇年平和祈念行脚」の出立。第五福竜丸の前で出発式を開き、焼津へむかった。三月一日、焼津市弘徳院の久保山愛吉氏墓前に着く。



一七回目を数えるこの行脚は、あいつぐ米・ロの臨界前核実験、緊迫する沖繩の米軍基地問題を反映して、支援の人々も従来以上に多いが、上人・庵主さんの姿も足

取りもひとときわきびしい。出発前、茨城県百里基地前でみな寒行したと木津上人はのべ、「続けること歩むことが力、人々の共鳴の輪をひろげる」と決意をのべた。

キリスト者の大津牧師、全国戦災者連絡会の杉山千佐子会長らが激励のあいさつ、協会からも連帯のエールを送った。

新しいパンフレット発行

一月末、平和協会編集の新しいパンフレット「第五福竜丸ものがたり」この船の名を告げ合おう」が発行された。A5判40頁三〇〇円。中学生・高校生むきにと、一年以上の準備を経て作成されたもので、本文の執筆は川崎昭一郎会長があつた。ビキニ事件全体の概要だけでなく、保存運動、展示館の開館以来の活動、二一世紀へのメッセージなどにも及び、従来のパンフレットより内容も一段と豊富。第五福竜丸の被災位置と危険区域、世界の核実験回数と核実験場、非核地帯等の図表も新しくされ、年表、関連書籍の紹介もあり、利用しやすいパンフレットとなった。新しく展示され

たエンジンの写真もある。表紙・裏表紙はカラー、ペン・シャインの「ラッキードラゴン」の写真も被爆者が教えてくれた被害の実相と、たたかう姿を伝え残す

村田 未知子

「間に合ったんですね。明るい表紙でステキ」。そう話しながら、一月二二日、三年近い運動が実った第五福竜丸エンジン「お帰りのさい集会」の日にパンフレット『第五福竜丸ものがたり』をいただきました。

このとき最初に思い出したのは、一九六八年春、通りかかった数寄屋橋で第五福竜丸の保存に小銭をカンパしたこと。募金箱をもっていた大人からお札を言われて、恥ずかしかつたこと。当時一七歳、高校生でした。

そして、保存運動のきっかけの一つになった朝日新聞の投書言葉「この船の名を告げ合おう」のサブタイトルをみて思い出したのは、昨年暮れの出島艶子さんの声。広島の六〇〇mの地点で被爆した、私が知る限り「語り部」をしている最も近距離被爆の人です。

「無事に女の子が生まれました。五体満足です。曾孫が生まれると聞いたとき、生後四カ月のとき孫が血

カラーで掲載され一層の彩りを添えている。三・一にむけいま普及中です(送料一部一四〇円)。

小板減少症にかかったことを思い出した。何で子どもを産んだのかと悩んだことも。二〇年も前なのに。あんな電話をしてゴメンネ。私たちは決してこの不安から逃れられないでしょうね」。

読みすすむうちに、被曝した乗組員の姿と不安は、被爆者団体の相談員として知った被爆者たちと同じだと再確認でき、核兵器に対して、あらためて強い怒りを覚えました。

一週間後の一月二九日、三鷹の被爆者の会の総会で出島さんは、小学生の感想文の束を宝物のように抱いて、「つらいけど伝えなくちゃダメ。原爆に負けられないから」と、爆風で刺さったガラスの傷跡が無数に残る頬をはこぼせていました。

私たちは、核兵器の被害者と直接にふれあひながら運動に参加できる貴重な世代です。同時にその実相を、次の世代に伝え残す使命があります。そのために、被爆者が教えてくれた被害の実相と、核兵器とたたかう姿とともに、『第五福竜丸ものがたり』も私の宝物にしたいと思っています。(東京都原爆被害者団体協議会)

あるエンジン屋の感想

村田正之

「エンジンお帰りの集い」が行われた二〇〇〇年一月二日の東京湾の島付近は、晴天ながら冬の強い潮風が吹いて寒かった。

新設のエンジン展示場前の広場には四〇〇名余の参加者が、新しい出発に眼を輝かせ、会場入口に掲げられた第五福竜丸の大漁旗も大きくはためいて喜びを表現しているかのごとく、筆者は熱気に溢れたセレモニーの各行事に強い感銘を受けた。

その理由は、筆者が今日までディーゼルの道一筋に歩んできたエンジン屋で、現在、日本船用機関学会の会誌に「日本の艦艇・商船用内燃機関の技術史」を連載執筆中であり、その保存に対する意義を特筆したいと念願していたためである。また、筆者が第二次世界大戦末期に勤務の旧海軍艦政本部の要務で、東京から関西地方に出張した際に、たまたまの休日を利用して郷里の広島に帰ったため、強烈な被爆体験による特別な思いがあったからでもあった。

筆者は、エンジンが和歌山県沖で引き上げられて、平和民間団体

のご尽力により東京に搬送される途中、三浦市でも展示される情報を得て、いたたまれない気持ちで早速見学させて頂いた。そして都庁の前の贈呈式と、そのあとの島の島における千羽鶴のチェーンで船体とエンジンを結んだ初対面式にも参加し、多くの関係者にお会いして有益な苦心談を聞かせて頂いた印象が強くなるなか、焼き付いていた。

さてつぎに、筆者が今日までに調査した第五福竜丸エンジンの性能、構造、生い立ちなどの概要につき詳細は後日にゆずるとして、主要点のみを簡単に記述させて頂く。

当エンジンは戦後間もない一九四六年(昭和二十一年)末頃に、(株)新潟鉄工所新潟工場で製造され翌年三月に納入された。形式はT六EK型、出力二五〇馬力、毎分回転数三八〇、シリンダー径二五〇ミリ、シリンダー数六、の四サイクル単動型無気噴射式ディーゼル機関で漁船用としてエンジン後部にミーツ・エンド・ワイズ型逆転機が装着され、総重量一一・五トンであった。

きわめて清練された形で、取扱

容易、性能優秀、信頼性の高いエンジンとして漁業界では当時の名機といわれるほど好評を博していた。(株)新潟鉄工所における機関製造番号は第七五四三号で、T六EK型機関の納入実績は合計四一七台に達する当時として記録的なものであった。このような優秀なエンジンが、何時どのような経緯で設計され、また製造が始められたのか、筆者が(株)新潟鉄工所のご好意により頂いた約五〇年以前の貴重な設計図面や各種資料および同社の元専務取締役 山本盛忠氏からの、ご親切な教示ならびに筆者が旧海軍時代より保有の資料を総合すると概略つぎのとおりである。

第二次世界大戦がはっ発して間もない一九四一年(昭和一六年)一月十九日、官制により海務院と称する当時の通信省と海軍省が艦艇以外の船舶を円滑に建造するための組織が発足した。実務は海軍艦政本部と海務院が表裏一体の形で戦時標準船の造船計画を実施するもので、翌年一月に協議会が開催され、小型船用の海務院型ディーゼル機関の設計担当会社として(株)新潟鉄工所、(株)池田鉄工所、(株)神戸発動機製造所の三社が決定した。

同じく焼玉機関担当の六社も決定され、双方とも設計委員会を設けて各社の精鋭設計者が英知を結集して

た。約六ヶ月後には製作図面を完成して同年七月二十五日通信大臣官邸において感謝状が授与された。しかし、その後の戦局推移によって海務院製エンジンは各社で製造に着手されたが、終戦までに完成したものは殆んどなく成果は発揮できなかった。

そして終戦に至り極端な食糧不足解決が政府の急務となり、特に水産業のかつお・マグロ漁船の建造が最重要施策となった。そのため、まずGHQ(連合軍総司令部)より一〇〇トン以下の木造漁船の建造許可を得、その初期の一九四七年(昭和二十二年)に第五福竜丸の前身である第七事代丸が建造された。搭載エンジンは(株)新潟鉄工所が前記の海務院型を終戦直後より大幅に改良設計し、製造は戦災が皆無であった新潟工場で行われて全国各地の造船所に供給された。当時は大会社でも農機具や鍋釜製造の時代であったのに、精密高性能なエンジンを多数製造して戦後復興に貢献同社の功績は大きくエンジン技術史に特筆されるべきである。第五福竜丸エンジンは核兵器廃絶の願いのほかに、今一つ貴重な意義が加えられ、他に類例のない記念品として大切に保存されるべきものと考え、次第である。(日本船用機関学会機関史編集委員会)

二〇〇〇年を憲法と話す年に

兵頭美代子

現在、人類が直面している危機として、環境問題、資源問題があります。

とくに地球規模での自然破壊や環境汚染は、人類だけでなく、他の生物の生存も脅かすと、世界的に環境保護の運動が広がり、世界共通の認識として多くの人々の関心を集めています。「酸性雨」「地球温暖化」「オゾン層の破壊」や、「ダイオキシン」環境ホルモンの有害化学物質による被害は、今世紀一〇〇年余りの間の科学技術の進歩と、経済発展による、大量生産、大量消費、大量廃棄が最大の原因といわれています。

それにも劣らぬ原因として戦争があります。自然破壊、環境汚染は勿論、加えて尊い人命を奪う行為は、地球の平和環境を保つためにも「平和」への関心を一層深めなければなりません。

第一次、第二次世界大戦の後、内戦や国家間の武力紛争は増加し、多くの人命が奪われ、難民は国境を越え、厳しい生活を強いられています。紛争中のインド、パキスタンは核実験の競争ともなりました。

①核兵器による環境汚染 放射性物質

放射能被爆の第一は広島、長崎の原子爆弾でした。次に第五福竜丸のビキニ環礁水爆実験での死の灰。大気圏で行われた核実験の回数約三二〇回、大量に放出された放射能は地球全体が汚染されています。包括的核実験禁止条約の調印国も増えていますが核の時代はまだまだ終わっていません。

地球が被曝したといわれた、ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故は、全ヨーロッパを包む二〇〇〇kmの広範囲が汚染されました。八〇〇〇km離れた日本では雨水の被害が報告されています。

②戦争の中にダイオキシン ベトナム戦争では、ジャングルに枯葉剤が散布され、森林は枯れ、生態系が大きく破壊されました。猛毒と言われるダイオキシン(枯葉剤)の被害は、奇型児の出産や、ガンの健康被害が続出しました。ベトナムの人々ばかりでなく、米国に帰還した兵士も同じ被害を受けました。老朽化した核兵器の廃棄物汚染も今後の大きな問題となるでしょう。このような戦

争行為や、豊かさを求めた生活は、美しい地球の環境を急速に悪化させています。無限でない自然、生態系を壊すことなく自然を回復することは容易なことではありませんが将来の世代のため、守り、育てていく私達は責任があり、行動が問われています。

一方が国では、長びく不況、倒産、失業の声は絶えず、生活不安はなかなか解決されません。国の対策が急がれる時、国会の混乱は目を覆うばかりです。昨年の「新ガイドライン法」の立法から、戦争介入の素地が進行し、今、国会の中に「憲法調査会」が設置されました。改憲の目玉となる「第九条」の改定は絶対にあってはならないことで、日本人の世界に向けての良心です。二〇〇〇年、平和憲法を守るため、憲法を話す年としなければなりません。

一月二十九日、朝日新聞の声の欄の投書を御紹介します。

「論議のう前に国のあり方」 高校生 内海彰子さん一六才

「憲法調査会が設置された。」「改憲への大きな一歩」となるだろうが、「数の横暴」が批判された国旗・国家法制化の記憶も新しく、不安を感じずにいられない。

国際貢献が一層求められる中、第九条を持つ日本は、現代の内戦、民族の紛争に対処できない状態にある、というのは事実だろう。だからといって「改憲」でなく、私はこの機会に、国際貢献あるいは平和主義というものについて、もう一度考えてみる必要があると思う。日本が求められている協力とは何か「正義と秩序を基調とする国際平和」のために、今、日本が出来ることは何であるのか。私は必ずしも武力によってのみ、もたらされるものではないと思う。時には、一つの言葉が武力に勝る力となることもある。今、問題なのは武力行使を可能にするかではなく、日本がどれだけ、世界平和に対して情熱を持っているかということなのではないだろうか。また、もし武力による協力が認められたとしても、果たして今の日本に正義というものが見極められるだけの判断力があるだろうか。そうでなければ、アメリカの「強者の論理」を擁護するだけで、真の世界平和を実現することはできないだろう。今の日本には主体性が求められている。国民と共に慎重に「論議」を進めて欲しいと思う。」

若い世代の「声」として頼もしく共鳴しました。(主婦連合会)